

義母が11月から入院しています。

病院の特別な計らいで、毎週金曜日に主人(息子)と妹(娘)と私(嫁)で面会させていただき、先生からお話を伺うという過ごし方になっています。妹は大阪から日帰りでやって来るので広島駅でピックアップして、母のいる病院(安芸高田市)まで車で往復します。

車中の時間が長いので、普段なかなかできないいろいろな話をしながら車を走らせます。両親にまつわる思い出話を兄妹がするのを、私も楽しく聞いています。母親というのは、息子には話さなくても娘と嫁には話しているということもあり、面白いものです。

父はフランスが大好きでした。理由は知りませんが、芸術やその雰囲気には憧れていたのだと思います。母と子供たちが言うには「かぶれていた」のだそうです。そんな父ですからフランスにかかわる仕事をしたかったらしいのですが、お兄さんが早くに亡くなったため次男である父は仕方なく医院を継ぐことになったのだそうです。医者になりたかったわけじゃない、フランスに行きたかったと言っているのを私も聞いたことがあります。そして後に船医になって世界中を回ってある程度夢を叶えました。娘曰く「お母さんと幼子を日本に残してよう行ったよ！」息子曰く「ほんま自分のやりたいことだけやとったよね！」

その父が亡くなってのち妹がアルバムの整理などしていると、フランス語の筆記体で“ma fiancée”と書かれた母の写真が出てきたそうです。娘「お父さんらしいわー」息子「フランスかぶれ丸出しじゃわ」確かに私から見ても義父はフランスにかぶれていました(笑)

お父さんとお母さんがヨーロッパ旅行へ行った先のパリで、持ち前の直感でサッサと歩いて行ってしまおう母と、ガイドブックと辞書を片手に調べに調べてフランス語を復唱して確認しないと動けない父の話を当人たちから聞きました。結構な珍道中だったかもなど微笑ましく思いました。

まだまだいろんな話が出てきそうですし、こんな日が少しでも長く続くと良いなと思っています。大阪から毎週やって来る妹は大変かもしれませんが。

お父さんが晩年使っていたフランス語の辞書を、今私が使わせてもらっています。古本屋で買ったものようで、その辞書には最初の持ち主と思われる広島女学院の方の名前が英語の筆記体で書かれてあり、そして父の印鑑が押してあります。今度は私も記名しておこうかなと思っています。

このように書くと、とても仲の良い夫婦だったように感じられるかもしれませんが、そんなことはなかったということを一言付け加えておきます(笑)